

日本語研究の国際化：国立国語研究所の取り組み

著者	窪園 晴夫
URL	http://doi.org/10.15084/00003191

日本語研究の国際化

—国立国語研究所の取り組み—

窪菌 晴夫(国立国語研究所教授・国際連携室長)

1. 人的交流

- 客員教員(招聘、有給)
- 外来研究員(本人申請、無給)
- 特別共同利用研究員
(本人申請、無給、大学院生)

2. 機関間交流 (国際交流協定)

Oxford大学、ソウル大学、
台湾Academic Sinica言語学
研究所、ハワイ大学、北京外国
語大学…(計15機関)

3. 国際発信 (4種類の企画)

- 国際シンポジウム
- 海外でのイベント
- 国際出版
- 先駆的名論文翻訳シリーズ

3.1. 国際シンポジウム (5~6件/年)

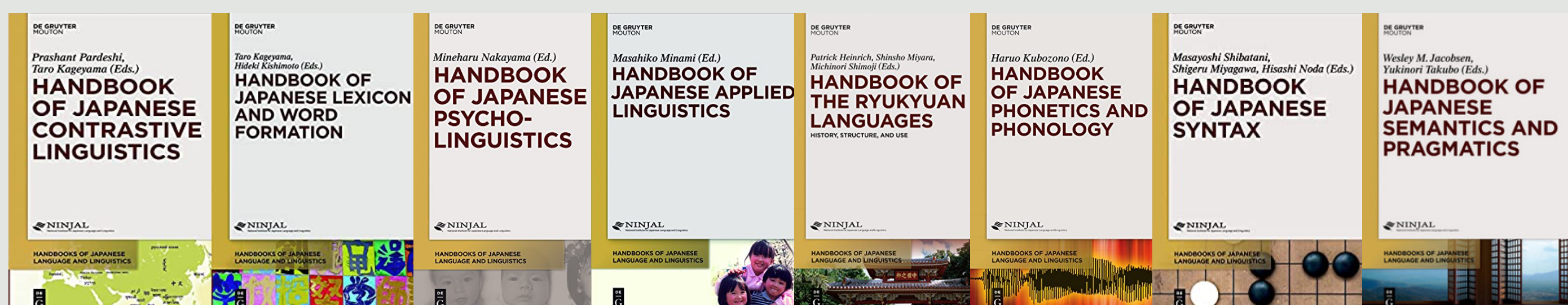
- 研究成果発表タイプ
 - 国際会議誘致タイプ
- 日本の研究者に成果発表の機会を提供し、
海外の研究者との交流を促進

3.2. 海外でのイベント (6件/年)

- 海外チュートリアル(大学院生向け)
- 日本語教師セミナー(日本語教師向け)
- 日本語学講習会(大学(院)生、日本語教師向け)

3.3. 国際出版 (2冊/年)

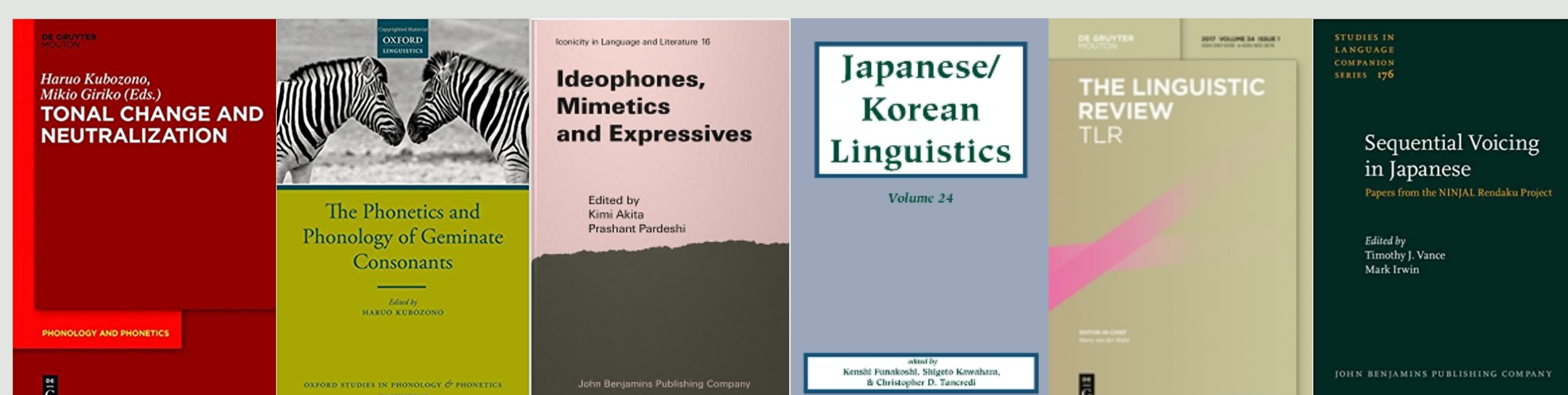
- Mouton Handbooks of Japanese Language and Linguistics (全12巻、ドイツ De Gruyter Mouton社)



- Mouton-NINJAL Library of Linguistics (2019~)

- 個別出版(Mouton, Oxford UP, John Benjamins…)

- 国際誌特集号(*Lingua*, *Journal of East Asian Linguistics*, *The Linguistic Review*…)



3.4. 先駆的名論文翻訳シリーズ(2018~)

- 優れた日本語研究の英訳とウェブ公開



□2018年度

南不二男	「述語文の構造」
林四郎	「臨時一語の構造」
金田一春彦	「現代諸方言の比較から見た平安朝アクセント」
徳川宗賢	「“日本諸方言アクセントの系譜”試論 —「類の統合」と「地理的分布」から見る—」
宮田幸一	「新しいアクセント観とアクセント表記法」
服部四郎	「附属語と附属形式」
石垣謙二	「作用性用言反発の法則」
橋本進吉	「国語仮名遣研究史の一発見—石塚龍磨の仮名遣奥山路について—」